行政視察報告書

令和５年８月 17 日

貝塚市議会議長　南　野　敬　介　様

阪口　　勇
川岸　貞利

【日程及び視察市】

令和５年８月９日
北海道　帯広市
「市民活動プラザ六中について」
（旧帯広第六中学校跡施設）

【内　容】

関西空港 6：45 発のピーチ航空で新千歳空港へ。到着後レンタカーを借り視察場所「市民活動プラザ六中」へ途中昼食を取り、１３時少し前に目的地到着しました。

玄関で議会事務局の簑島氏の出迎えを受け、２階の会議室にて市民活動プラザソフト事業推進室の平井氏から説明を受けました。

まず、帯広第六中学校が廃校となった経緯。

第六中学校がある場所は帯広市の東地区で、開拓がもっとも早くから行われた場所であり、もともとは人口も密集している古い住宅地区であった。よって少子高齢化が市内でもっとも進んでいた。もともとは子どもの数も多く、近い場所にもう一つ中学校（市立第三中学校）があり、第六中とは直線距離にして約 700ｍしかなかった。

生徒数も減り、第三中学校と第六中学校が統合され、第三中学校の場所に統合施設校が立てられ、第六中学校が廃校となった。

六中跡施設利活用の経緯（平成２３年３月に第六中学校の廃校予定）

◇　　平成２１年度～

・庁内検討会議（Ｈ２１－Ｈ２２）

プロジェクト会議　　４回

ワーキングチーム会議　１０回

◎福祉的な活用を中心とする複合的な施設としていくことが方向づけられた。

↓

・地域説明会の開催３回（H22．7/29、8/26、8/27）

・実施設計費の補正予算計上→平成２２年１０月議決

◇平成２３年度～

・体育館解体（６－７月）

・改修工事（６－１２月）

・引き渡し（１月）　引越し（２月）

◇平成２４年４月供用開始　「新たな福祉空間」として開館

※「市民活動プラザ六中」のビジョン

障害があっても、年齢を重ねても、住み慣れた地域で生き甲斐や役割を持ちながら豊かに暮らせる地域社会をめざし、障害のある人、高齢者、地域住民、福祉事業者、ボランティアグループ、行政等が一緒に様々な活動に取り組むことのできる、これまでにない新しいかたちの「福祉空間」をつくる。

◇構想で意識したポイント

○障害者施設を多く入れない→市内の障害者施設を市の一部に集めない

○地域のニーズに応えるしくみをつくる

・学校区の６５歳以上の世帯に訪問調査

○地域の困りごとを障害者の就労支援事業でカバーしていく。

○多くの人が通う仕掛けをする

・喫茶、食堂

・割りばし、ペットボトル等の回収

・畑仕事、花壇管理

・軽運動、ウォーキング開放

・移動販売車、パン、野菜等販売

◇管理運営について

○管理運営コンソーシアム

・入居団体による連絡協議会

・館の管理業務　・運営経費の管理

運営費の一部を負担

障害福祉課

◇ソフト事業について

○ソフト事業推進室

・事業の企画、運営　・地域支え合い体制づくり

・共生型社会形成　・地域コミュニティ向上

・障害者理解促進、啓発

・ノーマライゼーション促進

事業費補助

○入居団体の障害者福祉の共同作業所では、帯広市から委託を受け市の指定ゴミ袋を製作、市に納入しているとのこと。

○牛乳・パンの販売

○野菜の直売

○健康講座

○子ども達の居場所づくり

○商業高校のクッキング教室

○保育園児の散歩コース

◇避難所としても引き続き利用

平成２８年台風１０号　　避難者数　１３７名

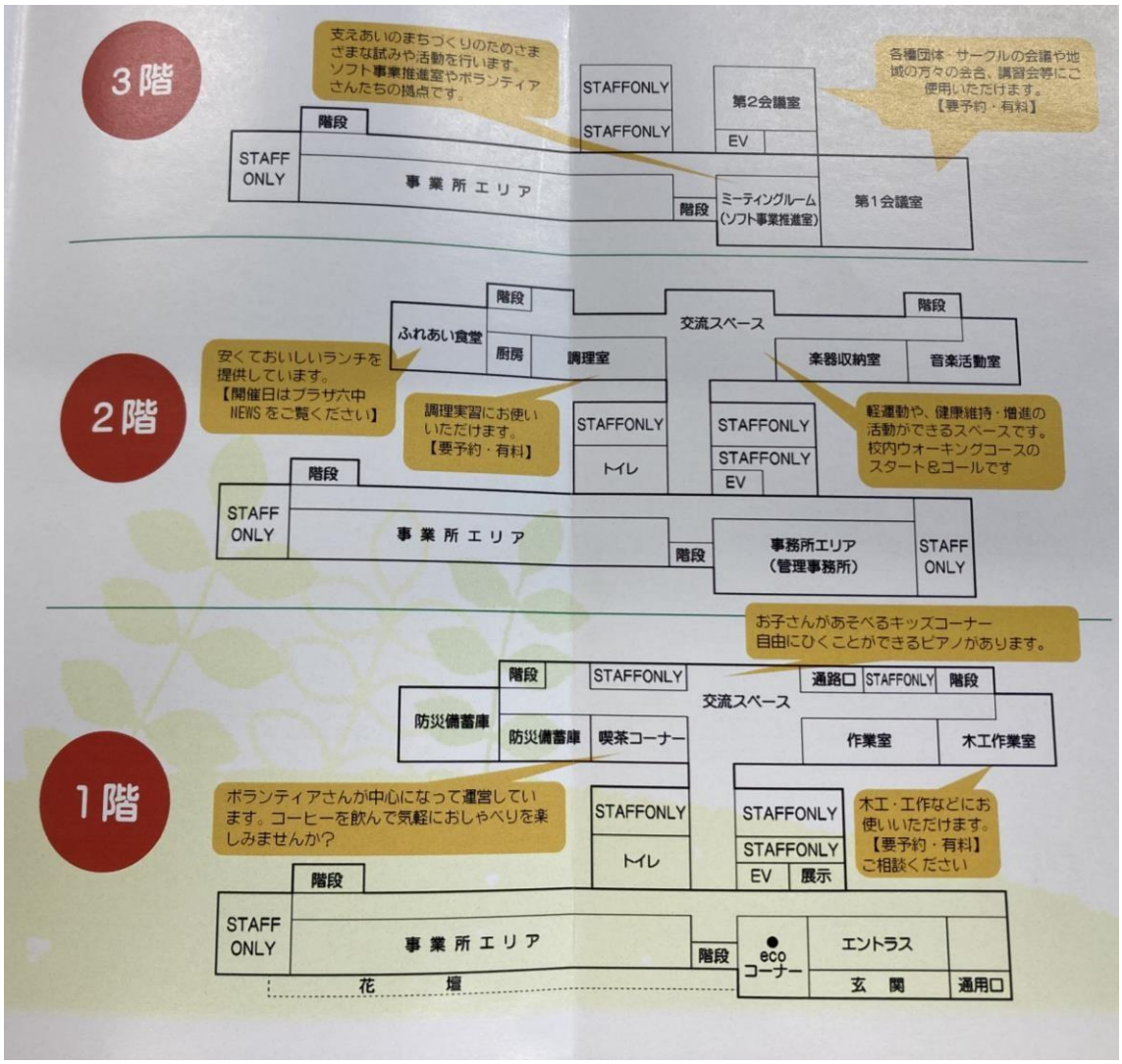
◇市民活動プラザ六中利用者数

一般利用者、事業所利用者合わせて　コロナ前では年間６万人強

令和４年度は４万５千人程度

※六中サポーター　令和５年３月末登録者数　９１人

自分の出来る事を、困っている誰かのために役立てるという気持ちで活動する方、六中活動の主旨に賛同する方（入会料５００円、保険料として）ひと通り説明を受けた後、施設を案内して頂きました。



入居している共同作業所の所長さんなど皆さんが作業中や活動中にも関わらず親切に説明をしてくれました。

午後３時となり、中学校廃校後施設利用の「市民活動プラザ六中」の行政視察を終え、レンタカーで新千歳空港に向かい、レンタカーを返却して、新千歳空港 20：00 発のピーチ航空で帰阪しました。

【感　想】

廃校となった中学校を地域活動プラザとして福祉の拠点と地域活動の拠点の施設として利活用した経緯、管理運営の方法そして経費面など詳しく説明頂きました。

もっとも聞かせて頂きたかった経緯については、生徒数の激減により中学校の統合、一つの中学校が廃校となる方針が決まったことと並行して、廃校後の施設の利活用について、検討が行われ、市内や地域からもアンケート調査や学校区の６５歳以上の世帯に訪問調査などで、市内団体のニーズや地域の方の意見の聞き取りを行い、 利用の方向性を決めていったこと。福祉的な活用を中心とする複合的な施設とすることを決め、市の福祉部署もかかわり進めていったこと。そして地域のニーズに応えられるようにと進めて、廃校となる年までに決めていったことが素晴らし

いと思いました。

管理・運営面では、施設利用入居団体である十勝障害者支援センター・ふれあいデジタル工房・とかち共同作業所で連絡協議会（市民活動プラザ六中管理運営コンソーシアム管理運営コンソーシアム）によって行われていること。

また、地域支え合い体制づくりや共生型社会形成そして地域コミュニティ向上のためのイベント企画運営などでは、入居する全事業所・団体によって構成される市民活動プラザ六中施設利用者連絡会が、各事業所・団体そして地域住民と情報共有し連携をはかり、専門組織としてソフト事業推進室が設置されいろいろな事業を行っています。市がその事業費などに補助金を出して施設の利用促進を行っていることなどは大いに参考となるものでした。

貝塚市立第五中学校が、小学校と統合し９年制の義務教育学校が新設されることから廃校となります。廃校後の施設利用について、これまでのように、またこれまで以上に地域の財産として利用できる施設となる事が地域の願いであります。

今回の帯広市の中学校廃校後の施設をどうするかについて、市が主体となり市民ニーズと地域の活性化を念頭に汗をかき地域と会話を行い進めていったことは、貝塚市でも実践して頂きたいと強く感じたとともに、地域の声を市に届け、施設の管理や運営についても、市と地域が協働して行う方式で、地域の活性化となる施設利用とすべきと強く思いました。そのためのヒントがたくさん詰まった本当に有意義な視察となりました。